

凍結にご注意を!!



寒波による低温注意報の発令や気温が上がらない日が続いたり、外気温が氷点下4℃になると水道管の凍結が起こります。気象台では、最低気温が氷点下6℃以下になると予想されるときに低温注意報を出して凍結対策を呼びかけています。

また、これからの時期は道路の凍結により交通事故が多発します。日中走りやすい道も夜間は滑りやすいこともありますので、路面の状況に応じた運転が大切です。

水道凍結防止

寒さで水道管を凍結または破裂させる家が増える季節。一般的には気温マイナス4度以下になると水道管が凍った

り破裂することがあります。凍結した場合、解氷作業を業者に頼むと費用がかかり

ます。余計な出費を抑えるためにも正しい水道凍結防止の仕方を覚えましょう。

仕組みを理解しましょう

水道管の場合

水道凍結は水道管の中にある水が凍結することで起こります。よって、水道の元栓を閉めて水を止めただけでは管の中にまだ水が残っているため凍結を防ぐことができません。蛇口を開け、空気を入れることで、はじめて管の中の水が抜け凍結しなくなります。

ストローを水につけ、その上を指で抑えて引き上げ、指を離すとストローの中の水が抜けていくのと考えると、分かりやすいと思います。

※水落とし（水抜き）をする

場合、蛇口より水を出しながら元栓を締めるのが一般的ですが、元栓を締めてから蛇口を開けても、水道管の中の水は抜けていきます。

シングルレバー（水を出す蛇口が1つ）で水とお湯を温度調整するタイプは、レバーを中途半端な位置で水落としすると水・お湯管共に水が落ちきれないことがあります。この場合は水側とお湯側のレバーを片方ずつ全開にして確実に水抜きをしてください。

給湯管（お湯管）の場合

給湯管は配管の仕方により水落としの仕方が違います。

天井配管

これは天井に配管が通っているタイプ。この場合は、お湯の蛇口全てを開ければ、天井にある配管の中のお湯（水）は蛇口より抜けますが、湯沸器と天井の間の管の水は抜けません。この場合は湯沸器本体の水も抜く必要があります。

不明な点は、第1水道課（☎2730）または第2水道課（☎2425）にお問合せください。

シリーズ『受けててよかった!がん検診』②

今回は、実際にがん検診を受けてがんが発見された方のお話です。

がん検診を受けて本当に助かりました。本当によかった!ホッとしています。今、元気にこうして働くことができます。ありがたいなあと思っています。

何か自分の中にも『今年は絶対にがん検診を受けなければ』という直感があり受けました。

結果は『精密検査を受けてください』でした。直感を信じて良かったと思います。すぐ病院で受診しました。結果、がんが発見されました。ごく初期のがんでした。冗談ではなく『がん!』というショックがきました。真つ先に家族のことが浮かびました。でも主治医の先生から、他の人はがんがもつと大きくなってから病院に来て発見されていることを聞いて、本当に検診で見つけてくださった先生にはとつても感謝しています。

もし、次の年に受けていたらリンパ節に転移していたと思います。転移していたら...と考えると、とても怖いのです。家族のこと、仕事のこと、友達のこと...今元気にいられることがとても幸せです。

治療方法は、手術と抗がん剤でした。正直、がんは初期、だと言われても、万が一を考えてしまい身の回りをぎれいに片づけてから入院しました。その時の気持ちはなんて言ったらいいのでしょうか。

手術を受けること自体にも、術後のむくみも、抗がん剤での脱毛も、体もですが精神的にとでもしんどくて楽ではなかったですが、現在はリンパ節への転移もなく、元気に仕事復帰することができました。最近、自分の体力が戻っているかを知りたくて、主治医に許可をいた